

郷土の近代短歌シリーズⅧ 伊藤左千夫を書く 出品目録

歌人、小説家・伊藤左千夫(一八六四〜一九一三) 小説「野菊の墓」の作者で知られる左千夫が新聞「日本」が募集した短歌、課題「松」を詠むために興津に来たのは明治三十三年九月でこの時、短歌の師である療養中の正岡子規に興津へ転地を勧めた長歌、反歌、2篇を読んでいる。翌年の明治三十四年夏に三保に於いて海水浴を愉しみ長歌、反歌一篇を三保の松原で謡曲羽衣として短歌八首詠み、併せて長歌三章、反歌五首、短歌八首が伊藤左千夫全歌集(岩波書店 一九八六年)に掲載されている。 本展ではこの内、短歌、反歌九首。長歌抄六首。長歌一章を努めて漢字仮名の変換を行わず「漢字かな交じり書」として小画仙紙半切や全半懐紙に書き、軸額装にして展示。その他、漢字、かな、臨書、十一點、団扇四點等、書作品、二十一名、三十點。その他、はがき絵等、七名、十三點、合計。二十八名、四十四點展示。

▲テーマ作品

1. 山のさち海のさちある興津邊に早ゆきすみて歌つくりませ 勸移居歌
2. 千早振三穂のみやしろ打出でて海邊にくれば空蟬の 以下略 三穂の浦 長歌
3. 千早振三穂のみやしろ打出でて海邊にくれば空蟬の塵遠ざかり 三穂の浦 長歌抄
4. 打渡す磯馴松原おのがししふりのをかしく伏したるは走るが如く 立ちたるは舞へるが如し 三穂の浦 長歌抄
5. 真砂照る磯邊時じく綿花の白波立てり 三穂の浦 長歌抄
6. 八汐路のそぐへの沖の伊豆山の遠瑞山はわだつみの神のなぐさと 薄墨にゑがける山か見がほし 三穂の浦 長歌抄
7. 三穂の浦は何にたとへていはむうべしこそかも 三穂の浦 長歌抄
8. 天津乙女が遊びきて雲井の家路忘れけらしも 三穂の浦 長歌抄
9. いにしへのことをともしみ三穂の浦にうしほ浴みつつ遊びけるかも 三穂の浦 反歌
10. 三穂の浦に潮浴みを居ればあま小舟久能の山蔭こぎいづる見ゆ 三穂の浦 反歌
11. うしほ波泳ぐが如くうつそみの吾身輕けば天路ゆかましを 三穂の浦 反歌
12. さくら花丹保へる色に朝日さしあなうるわしも天津乙女や 謡曲羽衣
13. 浦松の木ねれの空にうらくはしとまひかくまひみ袖ふらすも 謡曲羽衣
14. 羽衣はよしかへすとも萬代の後のかたみと玉乞ましを 謡曲羽衣
15. まひのぼる天つ乙女は蒼雲のそくへはるけく朝月の邊に 謡曲羽衣
16. 天人はまたもくめやも八重かすみいたづらにたつ三保の松原 謡曲羽衣

▲テーマ外作品

1. 争坐位文稿臨 帖 8. 枕草子抄 帖
2. 伝行成 白氏詩卷臨 帖 9. 金子董園の歌 額
3. 楽 額 10. 乙瑛碑臨 額
4. 皇甫誕碑臨 帖 11. 景 団扇
5. 米元章 蜀素帖臨 額 12. 涼風 団扇
6. 集古浪華帖臨 帖 13. 花 団扇
7. 吉井勇の歌 軸 14. 響 団扇
15. 伊勢集臨 帖

▲墨彩画、はがき絵出品者名

廣住翠豊他六名